『ホールドハンド』

登場人物

新井康介（0）（19）…大学一年生
新井真美（50）…康介の母
新井美希（25）…康介の姉、長女
新井楓（21）（22）…康介の姉、次女
新井智（60）…康介の父
西野千代子（57）（75）（76）…康介の祖母
西野賢子（53）…康介の叔母、真美の姉
西野かすみ（26）…康介のいとこ
西野さつき（23）…康介のいとこ
新井一真（0）（1）…楓の息子
高原幸江（75）…千代子の知り合い
安田浩平（48）…大学病院の医師

○千代子の家・リビング・一年前

新井一真（０）を抱いて立っている西野千代子（７５）。

その隣に新井楓（２１）。

前方の三脚にはカメラがセットしてある。

楓「ハイチーズ」

カメラのシャッター音がなる。

カメラの画面を嬉しそうに確認する楓。

千代子「お婆ちゃんに何かあったら、病院でも棺桶にでもその写真渡しに来てね。それまで大事にしまっておくから」

楓「まだまだ元気でしょ、お婆ちゃんは」

千代子「まあね～」

リビングを出ていく千代子。

微笑んで千代子の背中を見送る楓。

○同・縁側

風斗をあやしている千代子。

千代子「大きくなったらお母さんを助けてあ

げるんだよ」

ぐっすり寝てしまっている一真。

○新井宅・前・現在

車のトランクに荷物を乗せている新井美希（２５）。

玄関から出て来る新井智（６０）。

智「気をつけてな」

美希「うん」

智「お父さんも週末にはそっち行くから」

車の中を覗く智。

後部座席に座ってボケーっとしている新井康介（１９）。

智「康介！美希と母さん頼んだよ！」

康介「うーん」

生返事をする康介。

美希「（笑いながら）康介じゃ頼りないよ」

智「そんな事ないよ。な？康介」

康介「何が？」

○高速道路

『秋田』と書かれた標識の下を一台の車が走り抜ける。

○大学病院・病室

窓際で座って本を読んでいる新井真美（50）。

病室の扉が開く。

入ってくる康介と美希。

真美「意外と早かったね」

美希「飛ばしたから」

ベッドの横の椅子に座る美希。

真美「ちょっとわかりずらかったでしょここ」

美希「そう！だから康介にナビやらせたよ」

端に立っている康介。

康介「あとでアイスね」

笑う真美。

ベッドを見る美希。

呼吸器をつけて眠っている西野千代子（76）。

真美「一昨日はなんとか喋ったりしてたけど、
昨日からはずっと寝てるかな」
美希「そう」
千代子の手を握る美希。
ただ立って見ているだけの康介。
康介M「3年ぶりに母の地元である秋田県に
やって来た理由は祖母に会うためだった」
○千代子宅・縁側（夕）
椅子に座る康介。
康介「うわ、懐かし」
庭をボケーっと見ている康介。
○同・車庫前（夕）
シャッターが閉まっている。
家の中から出て来る康介。
康介「ここってまだ開くの？」
横で車から荷物を出している美希。
美希「もう何年も使ってないみたいだよ。そ
れより早く荷物運んで」

康介「はいはい」

荷物を家の中に運ぶ康介。

○同・奥の部屋（夕）

スーツケースを持ってくる康介。

6畳ほどの畳の部屋。

古いミシンや時計などを触る。

鼻から勢いよく空気を吸う康介。

畳に大の字で寝る。

○同・居間～玄関（夜）

テレビでバラエティ番組を見ている康介。

美希、来て

美希「何見てんの？」

康介「テレビ」

美希「見りゃわかるわ」

玄関の扉が開く音。

美希「あ、来た！」

玄関に向かう美希。

美希「かすみっちー！さつきー！」
かすみ「ただいまー」
さつき「美希ちゃん相変わらず元気だね」
スーツケースを持って入ってくる西野
かすみ（２６）、西野さつき（２３）。
かすみ「（手を振る）康介――！」
さつき「康介、超久しぶり」
康介「うん」
さつき「素っ気な！」
美希「照れてるんだよね～」
康介に抱きつく美希。
だるがる康介。
さつき「（笑いながら）ねえ、嫌がってるよ」
美希「嫌じゃないよね～！」
もっと嫌そうな顔をする康介。
かすみ「康介！久しぶり！」
康介に抱きつくかすみ。
さつき「え、じゃあうちも！」
続いて康介に抱きつくさつき。
３人に抱きつかれ、苦しそうな顔の康

介。

康介M「いとこのかすみっちとさつきっちに会うのも3年ぶりだった」

×　×　×

デリバリーピザを広げて食べているかすみ、美希、さつき、康介。

さつき「お婆ちゃんどうだった？」

美希「今はずっと眠ってるって」

かすみ「楓は？来るって？」

美希「わかんない。なんも連絡ない」

ピザを食べながら答える美希。

さつき「康介、楓からなんか聞いてないの？」

康介「なんも」

美希「どこで何をしているんでしょうかね～」

康介「ごちそう様」

立って去っていく康介。

美希「お風呂できてるよ！」

○同・奥の部屋（夜）

部屋の片隅にアルバムを見つける康介。

アルバムを開いて見る。

部屋を覗きに来るかすみ。

かすみ「康介？お風呂入んないの？」

康介「あー入るよ」

かすみ「何見てんの？」

康介、アルバムを見せる。

康介「見つけた」

康介の隣に来るかすみ。

かすみ「うわーー！懐かしい！これ私たち？」

小さい子供5人組の写真がたくさんある。

その中の赤ちゃんを指差して、

かすみ「これ康介だよ！可愛い」

康介「この泣いてるのは？」

かすみ「これは美希でしょ！」

笑ってアルバムを見ている二人。

○大学病院・病室

窓際で本を読んでいる真美。

ガラガラっと扉が開く。

かすみ、美希、さつき、康介が入って
来る。
真美「あ、来た来た」
かすみ「真美ちゃん、久しぶりー」
さつき「真美ちゃーん」
真美に抱きつくさつき。
真美「二人とも久しぶりー」
ベッドの横の椅子に座るかすみ、美希、
さつき。
端っこで立っている康介。
真美「今日はお婆ちゃんちょっと元気だよ」
さつき「え！ほんと？」
かすみとさつき、千代子に寄り添う。
かすみ「お婆ちゃん、来たよ」
千代子、何か小声で言っているが全く
聞き取れない。
真美「何？喉渇いた？」
スポイトのようなもので千代子に水を
与える真美。
顔を背けるようにして拒む千代子。

真美「違う？今日はかすみとさつきも来てくれたよ」

千代子、何か言っているが聞き取れない。

真美「なんて言ってるか分かんないよ」

唇を噛み締めるかすみ、涙ぐむさつき。

康介、そっと病室を出る。

○同・休憩スペース

座ってスマホを見ている康介。

メッセージアプリの画面を見ている。

『楓姉ちゃん』から『どこの病院だっけ』とメッセージが来る。

『北坂大学総合病院』と返信する康介。

○同・病室・中〜外

病室を出ようとするかすみ、さつき、美希、康介。

美希「じゃあまた明日来るね」

真美「うん、気をつけて」

病室を出ていく一同。

真美「あ、康介」

康介「何？」

真美「やっぱなんでもない」

病室を出て扉を閉める康介。

康介M「この時母が言いたかったことは何となく予想はついていた」

○田んぼ道（夕）

歩いているかすみ、美希、さつき、康介。

かすみ「お婆ちゃん、しんどそうだったね」

さつき「うん、手も細かったし」

美希「うちらも病室に泊まりたいね」

さつき「そうじゃん、泊まろうよ！」

かすみ「（笑いながら）うるさすぎてお婆ちゃんかわいそうだよ」

美希「孫！全員集結！」

笑っているかすみ、さつき、美希。

康介M「次女の楓姉ちゃんは家の居心地が悪

いと言って3年前に出て行った」
さつき「楓は何してんのかなー」
かすみ「結婚とかしてたりして」
美希「あのわがままお嬢様が？ないない」
康介M「みんなの予想を超えた楓姉ちゃんの
現在を知っているのは恐らく僕だけだった」
美希「ねぇ？康介」
康介「え？あー、うん」

○大学病院・受付（夕）
面会受付用紙に女性の手で『新井楓』
と書かれる。

○同・病室（夕）
窓際で本を読んでいる真美。
ガラッと扉が開く。
真美、扉の方に目を向ける。
扉の前に新井楓（22）が新井一真
（1）を抱いて立っている。
真美「（唖然として）楓……？」

○千代子宅・居間（夕）

居間で一真をあやしている楓。

遠くから隠れるようにして見ている

かすみとさつき。

かすみ「あれ、楓の子？」

さつき「多分」

かすみ「絶対？」

さつき「多分絶対」

楓のもとにやってくる康介。

康介「楓姉ちゃん、向こうの部屋にはなかっ

たと思うけど」

楓「本当？ちゃんと探した？」

康介に一真を預け、部屋を出ていく楓。

康介、一真をあやす。

ふと視線を感じ、前を見るとかすみと

さつきが立っている。

康介「うわ！びっくりした」

かすみ「楓の子なの？その子」

康介「（首を傾げながら）……多分」

さつき「抱っこさせて！」
一真をさつきに預ける康介。
さつき「うわー可愛い……」
一真を可愛がっているかすみとさつき。
かすみ「女の子かな？」
後ろから、
楓の声「男の子だよ」
振り返ると楓の姿。
さつき「あ！ごめん、楓！」
楓に一真を返そうとするさつき。
楓「いいよ、別に。抱っこしてても」
康介の顔を伺うさつき。
さつきを見てうなずく康介。
嬉しそうに一真をあやすさつき。
かすみ「楓、この子」
楓「（遮って）質問はしないで。康介、タンスの中は見た？」
康介「え？どこのタンス？」
楓「ほら来て、探すよ」
部屋を出ていく楓と康介。

かすみ、一真の頬をツンツンする。
一真、嬉しそうに笑う。

○同・寝室1（夜）
一真を寝かしつけている楓。
襖が開いて康介が顔を出す。
康介「姉ちゃんたち、花火するってよ」
楓「行かないよ」
康介「だよね」
襖を閉める康介。

○同・前（夜）
花火を準備しているかすみ、美希、さつき。
康介、中から出てくる。
さつき「楓来るって？」
康介「来ないって」
美希「そりゃそうでしょ」
康介M「美希姉ちゃんと楓姉ちゃんは仲が悪い」

かすみ「私もう一回声かけて来る」
家の中に戻っていくかすみ。
美希「ほっとけばいいのに」
手持ち花火に火をつける美希。
さつき「うちも！」
美希の花火から火を貰うさつき。
康介、バチバチと燃える二つの花火をボケーっと見ている。
康介M「仲が悪いどころではない。二人が一緒になると絶対に戦争が起こる。絶対に」

○同・寝室1（夜）
かすみ、そっと襖を開いて中を覗く。
一真の横で寝てしまっている楓。
外からは美希とさつきのはしゃぎ声が聞こえる。
かすみ、楓に毛布をかける。

○公園（朝）
10人程がラジオ体操をしている。

その中にかすみ、美希、さつき、少し
離れた所に康介の姿もある。
さつき「今日ママ来るってよ」
美希「お母さんも今日は帰って来るかもって」
かすみ「今夜はきりたんぽパーティーかな」
康介の隣の高原幸江（７５）、
幸江「あなた達、西野さんのとこのお孫さん
たちでしょ。大きくなったね」
康介、作り笑いをして会釈する。
幸江「西野さん最近見かけないけどお元気に
してる？」
康介「あ、まあ……」
幸江「それならよかったわ。私たち高齢者は
いつコロッといくかわかんないからね」
ラジオ体操をしながら暗くなっていく
康介の表情。

○千代子宅・玄関～リビング（朝）
外から入って来るかすみ、美希、さつ
き、康介。

美希「今日の夜散歩行こうよ」
さつき「カエル捕まえたい！」
美希「康介も来るよね？」
康介「えー……」
かすみ「ただいまー」
リビングにはダンボールや書類などあらゆる物が散乱している。
その中で何かを探している楓。
入って来るかすみ、美希、さつき、康介。
散らかったリビングを目の当たりにする4人。
さつき「え、なにこれ……」
かすみ「楓？何か探してるの？」
楓、探しながら、
楓「別に。ちょっとね」
一番後ろにいた美希、
美希「あんた何やってんの？」
無視して探し続ける楓。
その場をそーっと去ろうとする康介。

康介の手をガシッと掴むかすみ。
美希「こんなに散らかして。何しに来たの？」
無視し続ける楓。
美希「勝手に出てって、今は子供がいるのか知らないけど。お婆ちゃんにもずっと会ってないんでしょ？お金でも探してんの？」
かすみ「美希」
美希を止めるかすみ。
かすみ「楓、何か探してるんだったら」
楓「（遮って）そっちこそ何しに来たの？いつまで経っても子供みたいに。遊びに来たの？」
美希「は？」
上を向いてため息をつく康介。
美希「子供一人産んだだけで大人になったつもり？」
手が止まる楓。
楓「あんたに子育ての何が分かんの？２５にもなってまだ実家に住み着いてるくせに」
美希「別に？何も分かんないけど？ただ子ど

もに育てられる赤ちゃんもかわいそうだなーと思っただけ。どうせ相手も大した男じゃ」

かすみ「（遮って）美希！」

楓「最低」

リビングを出ていく楓。

美希「あームカつく」

かすみ「美希、言い過ぎだって」

美希「だって……」

不貞腐れている美希。

端でしゃがみ込むさつき。

かすみ「（呆れて）さつき？あなたはどうしちゃったの？」

さつき「楓の言う通りだよ……。私なんてガキだ。クソガキだ……お婆ちゃんが大変な時に花火とかしちゃったりして……。24で絶賛実家暮らしだし」

ため息をついて家を出ていく美希。

かすみと康介、目を合わせて呆れた表情。

○大学病院・病室

ゆっくり扉が開く。

さつきの姿。

扉の方に目を向ける真美と西野賢子

（53）。

さつき「ママー」

賢子に抱きつくさつき。

賢子「何でさつき一人なのよ」

さつき「まぁ色々あって」

真美「色々って？」

さつき「勃発？みたいな？」

真美「（ため息）やっぱり」

さつき「うち今日ここ泊まる」

賢子「何言ってんのよ」

さつき「お婆ちゃーーん」

千代子に寄り添うさつき。

× × ×

扉が勢いよく開く。

美希の姿。

真美「次はあなたね」
賢子「本当に別々で来るのね」
×　×　×
千代子の手を握っている美希。
賢子「楓、いつ結婚したのかな」
美希「知らない」
賢子「早く赤ちゃんみたいな」
真美「お姉ちゃん、そんな他人事みたいに言わないでよ」
賢子「めでたいことじゃない」
ため息をつく真美。
賢子「で、楓は何を探してるの？」
美希「さあ？家の中すごいことになってたよ」
何か考えている様子の真美。
美希「今日ここ泊まろうかな」
賢子「でた、二人目」
美希「お婆ちゃーーん」
千代子に寄り添う美希。
×　×　×
賢子「次は誰が来るかなー」

扉が開く。
扉の方を見る真美と賢子。
一真を抱いて入って来る楓の姿。
賢子「あら次は楓ね。久しぶりじゃない」
楓「うん」
一真を抱いたまま千代子の横に座る楓。
賢子「ねね、抱っこさせてよ」
一真を抱っこする賢子。
賢子「可愛いねー。名前は？」
楓「一真」
賢子「一真？」
賢子、真美と目を合わせる。
楓「何？」
賢子「（誤魔化すように）いや何でもない。じゃ、私ちょっと散歩行って来るねー」
一真を抱いたまま病室を出ていく賢子。
寝ている千代子をじっと見ている楓。
真美「今日も暑いねー」
黙っている楓。
真美「最近元気にしてた？」

楓「うん」
真美「お金とか困ったりしてない？」
楓「大丈夫」
真美「そう」
　黙って千代子を見つめている真美と楓。
真美「楓、あの子は誰との子供なの？今どこで誰と暮らしてるの？」
楓「言いたくない」
真美「どうして？教えて」
楓「関係ないじゃん」
真美「関係なくない。３年間連絡もしないで。どれだけ心配したと思ってるの？」
楓「そうやって何でもかんでも知ろうとしてくんのやめて。だから嫌なんだよ」
真美「何でもかんでもって」
楓「（遮るように）私はお婆ちゃんに会いに来たの」
　黙ってしまう真美。
楓「（千代子に）お婆ちゃん、約束してた写真どこにしまったの？見つからないよ」

優しく問いかける楓。

真美、引き出しから一枚の写真を取り出し、楓に渡す。

真美「探してたものってこれのこと？」

一真を抱いた千代子と隣に立つ楓の写真。

真美「あなた、お婆ちゃんには会ってたのね」

写真をじっと見つめる楓。

楓「これ、どこに……」

真美「ずっと手に持ってたんだって。病院に運ばれた時も離さなかったって先生が言ってたよ」

涙ぐむ楓。

真美「一真って名前はね、お婆ちゃんがもし男の子が生まれたら付けようって決めてた名前なんだよ」

楓「え、そうだったの？」

真美「だけどお母さん達は二人姉妹でしょ？それに康介が産まれた時はもうお父さんが名前決めてたから一真って名前は付けなか

ったの」

楓「お婆ちゃんそんなこと一言も……」

真美「（微笑んで）だからなんかお母さん達の兄弟みたいな感じだね。一真は」

楓「何言ってんの。やめてよ」

真美「冗談よ。冗談！」

真美、楓の脇腹を突く。

楓「わかってるよ」

うっすら笑みが溢れる楓。

○大学病院・外観（夕）

日が沈んできて空がオレンジ色になっている。

○同・病室（夕）

ベッドの横に座っている真美と賢子。

賢子「まさかお母さんが楓に会ってたとはね」

真美「（千代子に）ほんと。教えてくれれば良かったのに」

扉が開き、入って来る康介とかすみ。

真美「あら、二人は一緒なのね」
かすみ「私たちは中立国家ですから」
賢子「康介、また大きくなったね～」
康介の全身を驚いた顔で見る賢子。
康介「（笑って）そんな変わってないよ」
賢子「もう真美ちゃんより高いんじゃない？」
真美「私はもうとっくに抜かされてる」
賢子「（感心して）そうなの？いい男になったね～」
苦笑いの康介。
椅子に座るかすみと康介。
千代子の手を握るかすみ。
かすみ「お婆ちゃんの具合は？」
真美「ここ何日かはほとんど眠ってる」
かすみ「そう」
賢子「（千代子に）お母さんも幸せ者だね。いろんな孫達が会いに来てくれて」
かすみ「（笑って）いろんな孫達って」
扉が開く音。
白衣を着た安田浩平（４８）、

安田「（かすみと康介を見て）あ、また後で来ます」

帰ろうとする安田。

真美「先生、どうしたんですか？」

安田「ちょっと西野さんの様子をみようと思っただけなので」

賢子「全然、お構いなく！どうぞ」

×　×　×

機械を見て記録をとっている安田。

安田「それにしても、西野さんたくさんお孫さんがいるんですね」

かすみ「（笑って）いろんなお孫がいます」

賢子「ひ孫も居ます」

千代子の耳元に話しかける安田。

安田「（千代子に）良かったですね。西野さん」

真美「最近はずっと眠ってるんですよね」

安田「声は出せなかったり、体は動かせなくても耳ではちゃんと聞こえてる事もあるんです。眠ってるようでもちゃんと聞こえてるはずです。たくさん話しかけてあげてく

ださい。では失礼します」

病室を出ていく安田。

かすみ「じゃ、私たちももう帰ろうかな」

賢子「気をつけてね。今日はママ達も家行くから」

かすみ「うん、じゃあまた」

立ち上がるかすみと康介。

真美「康介」

康介「ん？」

真美「お婆ちゃんの手握って上げて」

千代子の横に座る康介。

真美「お婆ちゃん、康介に久しぶりに会えて嬉しいと思う」

康介、布団からそっと千代子の右手を出し、優しく両手で包み込む。

かすみ「私たちは毎年来てるけど、康介は3年ぶりだもんね」

賢子「良かったね。お母さん」

康介、細くシワシワの千代子の手をじっと見つめている。

康介「あ……」

真美「ん？」

康介に注目する真美、賢子、かすみ。

康介「握った……」

康介の手を握り返している千代子の手。

優しく微笑むかすみ。

賢子「やっぱ聞こえてるんだね」

涙ぐむ真美。

握り返す千代子の手をじっと見つめている康介。

呼吸器をつけて眠っている千代子の姿。

○千代子宅・リビング（夜）

テーブルに座っているかすみ、美希、さつき、康介。

キッチンから食材を持って来る真美と賢子。

テーブルの真ん中に鍋が置いてある。

美希「来たー！きりたんぽ！」

賢子「いっぱい食べてくださーい」

さつき「やったーー！」
鍋に具材を入れていく一同。
真美「（康介に）楓は？」
康介「さあ？」
真美「ちょっと呼んで来てよ」
康介、立ち上がろうとした瞬間、リビングにやって来る楓。
賢子「楓！早くそこ座りな！」
康介の横に座る楓。
×　×　×
笑って盛り上がっている一同。
美希「それでみんな逃げたのに、康介だけ取り残されてお尻噛まれたの」
さつき「でもオムツしてたからセーフ！」
大爆笑の一同。
楓もクスクスと笑っている。
不貞腐れている様子の康介。
康介「その話何回するんだよ」
賢子「そんな康介も来年二十歳だもんね」
かすみ「やだー、康介が二十歳なんて」

真美「（笑って）やだって」
かすみ「私の中の康介は小学校二年生で止まってるのに」
賢子「免許も取ったんだっけ？」
真美「まだ仮免よね。本試験落ちたから」
さつき「落ちたの！？」
康介「うるさいな」
再び笑う一同。
康介M「こうやってみんなで集まったのは久しぶりだった。が、どこか本人のいない誕生日パーティーのような感じがしていた」
外から打ち上げ花火の音がする。
真美「誰か花火やってるね」
賢子「あ！誰だっけ、昔道路のド真ん中で花火やってお婆ちゃんに『こんなところで花火なんてしちゃダメ！』ってこっぴどく怒られた次の日に、家の中で花火やった人！」
かすみ「そんなことあったねー」
さつき「それ、美希ちゃんと楓じゃなかった？」

美希「あれは外がダメなら中でやればいいのかなって思ったの」
康介「普通わかるでしょ」
美希「うるさいな！幼稚園生くらいの時でしょ！」
真美「いや、あれは小学生。しかも中学年」
かすみ「誰かおつかい行ったきり帰って来ないみたいな事もなかった？」
賢子「お婆ちゃんが隣町の交番まで迎えに行ったんだっけ？」
さつき「それも……美希ちゃんと楓じゃなかった？」
楓「あれはバス停が工事中でわかりずらかったから間違えたの」
康介「普通わかるで」
康介の頭を叩く楓。
さつき「美希ちゃんと楓、いつもくっついてたよね」
一瞬目が合う美希と楓。
互いに気まずそうに目を逸らす。

真美「懐かしいねー」

○同・寝室1（夜）

一真の横で寄り添うように寝ている楓。

○同・寝室2（夜）

グチャグチャな布団の上にバラバラな体の向きで寝ているかすみ、美希、さつき、賢子。

○同・奥の部屋（夜）

アルバムを見ている康介。

○同・玄関（夜）

康介、パジャマ姿で外に出る。

○同・前（夜）

空を見上げている真美の後ろ姿。

出てきた康介に気づいて振り返る。

真美「まだ起きてたの？」

康介「うん」

再び空を見上げる真美。

真美「星綺麗だよ」

康介、空を見上げる。

康介「本当だ」

空をじっと眺めている二人。

真美「楓のこと知ってたんでしょ」

康介「え？」

真美「楓に子供がいること」

康介「うん……まあ」

真美「なんで教えてくれなかったのよ」

康介「それは楓姉ちゃんに言うなって言われたから」

真美「そうなんだ」

康介「うん」

真美「でもお母さん、ちょっと寂しいなー」

横目で真美を見る康介。

空を見ている真美。

真美の電話が鳴る。

真美「はいもしもし？」

真剣な真美の顔。

真美「はい、わかりました」

電話を切る真美。

真美「行かなきゃ、病院」

×　×　×

前に止めてあった8人乗りの車に乗り込む一同。

助手席に乗る真美。

運転席に乗る賢子。

○車内（夜）

エンジンをかけようとした賢子。

賢子「あ！」

真美「何？」

賢子「私、メガネ病院に忘れた」

真ん中の座席の真ん中に座っているさつき、

さつき「ママ、メガネないと」

賢子「運転できない……」

真美「他に運転できる人？」

賢子「美希は？」

さつきの隣に座っている美希、

美希「私、お酒飲んじゃった……」

真美「じゃあタクシー呼ぼう」

賢子「こんな時間にタクシー？」

真美「だってそれしかないでしょ」

さつきの隣に座っているかすみ、

かすみ「いや」

振り返る真美。

真美「何？」

一番後ろの席で一真を抱いて座っている楓、

楓「康介がいる」

一斉に全員が楓の隣に座っている康介を見る。

小刻みに首を横に振る康介。

×　×　×

運転席に座り運転している康介。

助手席には賢子が座っている。

賢子「ここ左」

康介「はい」

賢子「内輪差気をつけて」

康介「はい」

ぎこちなく左折する康介。

後部座席に座っている真美、

真美「ゆっくりでいいからね」

静まり返っている車内。

各々窓の外を見ている。

康介M「病院までの静かでゆっくりなこの時間は心の準備には十分なはずだった」

○大学病院・病室（夜）

呼吸器が外され、横になっている千代子。

病室の壁際に立っている、真美、賢子、かすみ、美希、さつき、一真を抱いた楓、康介。

ベッドの脇に立っている安田。

安田「8月13日、午前2時56分。お亡くなりになりました」

頭を下げる安田。

真美「なんで一人の時に……」

真美、泣きながら千代子の手を取る真美。

安田「今日までよく頑張りましたね。辛さはなかったと思います」

泣きながら真美の背中をさする賢子。

壁際に立ったまま泣いているかすみ、美希、さつき、楓。

一真も楓の腕の中で大泣きしている。

涙目にながらも堪えている康介。

康介M「泣いた。みんな泣いた。でも僕だけは泣いてはいけない、耐えなければいけない、そんな気がしていた」

○同・駐車場（朝）

葬儀社の車を見送る一同。

真美「じゃあお母さん達はこれからいろいろしなきゃいけない事あるから」

賢子「気をつけて帰りなよ。タクシー呼んで

もらってるから」

かすみ「ママ達も無理しないでね」

車に乗り、病院を出ていく真美と賢子。

黙って見送る、かすみ、美希、さつき、

楓、康介。

○千代子宅・前（朝）

ゆっくり歩いて来るかすみ、美希、

さつき、楓、康介。

さつき「美希ちゃん、喪服持ってきた？」

美希「うん、一応」

かすみ「着たくなかったね」

康介、立ち止まる。

康介「あのさ」

振り返るかすみ、美希、さつき、楓。

康介「みんなで写真撮ろうよ。」

○同・車庫前（朝）

シャッターが大きな音を立てて開く。

中には、自転車が5台。

かすみ「これ……まだ乗れる？」
楓「空気入れれば……？」
×　×　×
各々自転車に跨っている一同。
向かいの家の前で一真を抱いて立っている幸江。
楓「一真をよろしくお願いします！」
幸江「（笑顔で）はいよー」
一斉に自転車を漕ぎ出す一同。

○田んぼ道
自転車を漕いでいるかすみ、美希、さつき、楓、康介。
康介以外はママチャリに乗っている。
最後尾で子供用の自転車に乗っている康介、手にはアルバムを持っている。
康介「ねえ、なんで俺が一番ちっちゃいチャリンコなの？」
さつき「昔から康介はその自転車だったでしょ！」

康介「昔はね。今は一番背高いし」
美希「自転車は背の順じゃないの！年齢順！」
美希、持っていたカメラの三脚を空に突き上げる。
ため息をつく康介、立ち漕ぎで一気に加速する。

○公園
ゴリラの遊具の前に並んでいるさつき、美希、楓。
アルバムの写真と三脚のカメラの画面を見比べている康介とかすみ。
かすみ「さつき、もっと左に寄って」
さつき、ちょこちょこと左に寄る。
かすみ「それで私がここら辺か」
さつきの横に並ぶかすみ。
康介「いくよ！」
ボタンを押してかすみのもとへ走っていく康介。
美希「何秒？」

康介「あと3秒！いくよ？かすみっち！」

かすみ「こい！」

かすみに飛びつく康介。

かすみ「おも！」

カメラのシャッター音がなる。

○川辺

並んでいるかすみ、美希、さつき、楓。

竹の子のようなポーズをしているさつきと楓。

カメラの画面を見ている康介。

康介「いくよー」

カメラのスイッチを押して走って楓の横につく康介。

すぐに竹の子のポーズをする康介。

楓「何このポーズ」

さつき「竹の子ポーズだよ！」

カメラのシャッター音がなる。

○バス停

並んでいるかすみ、美希、さつき、楓。
カメラの画面を見ている康介。
康介「美希姉ちゃん、ちゃんと泣いてね」
美希「わかってますー」
さつき「えーんって可愛くね」
美希「はいはい」
康介「いくよ」
カメラのボタンを押して走って横に並ぶ康介。
美希「えーん！」
泣いているポーズをする美希。
カメラのシャッター音がなる。

○市民プール・前
建物を見上げているかすみ、美希、さつき、楓、康介。
さつき「プール懐かしいー」
美希「最後に来たのいつだっけ？」
かすみ「もう10年くらい前じゃない？」
三脚にカメラをセットする康介。

楓「ここで撮るの？」
康介「うん」
アルバムを開く康介。
さつき「こんなところで写真撮ったっけ？」
美希「全く覚えてない」
康介「楓姉ちゃん、美希姉ちゃん、さつきっち、かすみっちの順に並んで」
康介の指示通り並ぶ一同。
康介「それでみんな手を繋ぐ」
美希「え？」
さつき「あ！思い出した！シンクロとか言って撮ったんだ！」
かすみ「あー、プールでずっとシンクロやってた時あったねー」
かすみとさつき、さつきと美希は手を繋ぐ。
かすみ「ほら、美希と楓も」
さつき「（笑って）何照れてんの」
他所を向いて聞こえないフリをしている美希と楓。

康介、歩いて来る。
美希と楓の手を無理やり繋がせる康介。
楓「ちょ……」
美希「康介、あんた……」
カメラの設置場所に戻る康介。
康介「はい、撮るよ」
かすみ「康介！この写真、みんなどんな顔してる？」
康介、写真を見る。
康介「はち切れそうなくらい笑ってる」
さつき「（美希と楓に）だってよ！」
美希「（楓に）笑いなよ」
楓「（美希に）そっちこそ」
康介、ボタンを押して楓と手を繋ぐ。
康介「手上に挙げて！笑って！」
一斉に繋いだ両手を上げる一同、満面の笑み。
カメラのシャッター音がなる。

○火葬場・炉前

合掌している喪服姿の賢子、真美、かすみ、美希、さつき、和馬を抱いた楓、康介、智。

康介M「お婆ちゃんが手を握り返してくれたあの時、思ったことがある」

○同・廊下

歩いている一同。

一番後ろを歩いている康介と智。

二人して、皆の後ろ姿を見ている。

智「毎回思うけど男少ないよな」

ふふっと笑う康介。

○同・待合室

椅子に座っている一同。

さつき「ねね、今気づいた」

さつき、襟元についているクリーニングのタグを見せる。

賢子「嘘でしょ」

かすみ「恥ずかしいなー」

美希「え、うちもなんだけど」
襟元のタグを見せる美希。
智「二人ともみっともないよ」
かすみ「おじさんも付いてるよ」
智「うぇ？」
自分の襟元を確認する智
かすみ「嘘だよ」
笑っている、賢子、かすみ、美希、さつき。
そのやりとりを笑って見ている康介。
窓際で一真をあやしている楓。
少し離れたところに座っていた真美、席を立って出ていく。
出ていく真美に気づく康介。

○同・エントランス前
中から出てくる康介。
外のベンチに座っている真美の後ろ姿を見つける。
涙を拭っている様子。

○ベンチ

座って涙を拭いている真美。

康介、隣に座る。

真美「（笑って）どうしたの？」

康介「これ」

写真の束を真美に渡す康介。

真美「何？これ」

かすみ、美希、さつき、楓、康介の5人で撮った写真の数々。

現在の写真、昔の写真が交互に重ねてある。

現在の写真では、昔の写真の並びやポーズが忠実に再現されている。

真美「こんなのいつの間に」

笑って見ている真美。

○火葬場・待合室

写真を見ている、賢子、かすみ、美希、さつき。

賢子「よくこのポーズしてた時期あったわ」
さつき「でしょ！竹の子ポーズ」
美希「ダサ過ぎ」
笑っている一同。
かすみ「楓もおいでよ」
窓際にいた楓も写真を見にくる。

○ベンチ
座っている康介と真美。
康介「本当はお婆ちゃんにも見せたかったんだけど」
真美「見てると思うよ。どこかで」
写真をめくる真美。
市民プール前で撮った現在の5人が手を繋いでいる写真。
真美「あ、これ！シンクロのやつ！」
次の写真を見る真美。
幼少期のかすみ、美希、さつき、楓、康介が満面の笑みで手を繋いでいる。
真美「懐かしい……」

康介、立ち上がる。

康介「最後の写真、自分で渡せばって言ったんだけどね」

去っていく康介。

真美、写真をめくる。

新生児の写真。

写真には『一真』と書かれている。

涙目になる真美。

裏を見ると住所と『お母さん、いつでも待ってます　楓』の文字。

涙が溢れ出る真美。

○橋の上

一人、喪服姿で歩いている康介。

康介M「お婆ちゃんが手を握り返してくれたあの時、思ったことがある」

橋の手すりに寄りかかり景色を見ている康介の後ろ姿。

康介M「娘を、みんなをよろしくね。そう言われた気がした」

風に吹かれている康介。

清々しい表情。

康介M「勝手な勘違いかもしれないけど」

○千代子の家・縁側・19年前

椅子に座っている西野千代子（57）、

新井康介（0）をあやしている。

真美の声「お母さーん！もう行くよ！」

千代子「はーい」

千代子、立ち上がる。

千代子「長男として立派な男の子になるんだよ。みんなを守ってあげてね。康介」

嬉しそうにニコッと笑う康介。

康介を抱っこしている千代子の後ろ姿。